

大綱の新らしい支部からも出席されてゐる、段々關係農民が吾々益農協佐に加はりつつあるを喜ぶ。

8、答 辭 筑紫水城支部長 森 田 幸 吉

世の中は文明に進み、商工は發達して來た、然し日本は農業を根本とした國である農民は國家の根底をなすものである、資本家地主の商工業は完成してゐるが、小作人労働者は飢へ死しそくな有様である、國家政府は顧りにならなくなつた、十二年前に農民自身の生きる道を構する爲農民組合が組織されて以來今日迄で戦つて來た、福岡で吾々運動が出来なかつた事は當局の斷崖、注意、でやれなかつたそれで佐賀に移つたのであるが今回福岡にかへられた事を喜ぶものである。

朝倉依井支部長 木村善三郎

本年は田植が遅れ植付後の水不足、九月十三日よりの長雨で不作になつた擧句大風雨で又やられ朝倉の方ではモチ病で七割以上の減收も澤山ある、役場から調べに來たが見方が丸で違つてゐる、吾々自身がお互に助け合ふ以外には何もないのだ、今年以上の凶作以上の非常時はあり得ない、内閣が潰れると代りが出来るか、吾々のあとは誰れか造るか、本日の大會は吾々が來年をどうして喰つて行くかを會議するのである、慎重に協議したい。

9、祝詞祝電

○祝 詞

八幡失業業者同盟執行委員長 成 軍 誠

六十何年の大旱魃を蒙り益農小作民諸君自身が生活を守る爲に茲に第七回大會を開ひ纏て來る可き地主對小作人